

明るく、楽しく、社会の一員として 「ピカソ・カレッジ新百合」



運動会では力を合わせて頑張りました!

玄関を開けると、笑顔と声が自然に行き交っている「ピカソ・カレッジ新百合」。株式会社アイムが運営する、高校卒業後の障害がある人たちが利用する生活介護事業所です。20代の利用者が多く、活気にあふれています。麻生区に2つの拠点があり、古沢ではアート制作が中心、金程では調理など別の活動が行われています。利用するのは同じメンバーで、毎週水曜日に拠点を入れ替えて活動します。運動会やクリスマス会、遠足などのイベントは、両方の拠点が「新百合」として集まって合同で行っています。

自由活動と作業がつくるリズム ポイント制の工賃が働く実感に

一日の流れは朝10時から夕方4時まで。朝の会ではラジオ体操やダンス、係を決めて、その後はそれぞれの活動へ。お話ししたり、ゲームしたり、買い物、アート制作など、自由に活動内容を選びます。

金程の拠点では毎日のランチを作り、食缶で古沢へ運びます。スタッフの方は、「こちらが言わなくても猫の手をするようになったとき、薄切りができるようになったときに成長を感じます。『おいしいね。ありがとう』という掛け合いができるのがとても楽しく、働く原動力になっています」と笑顔で話してくださいました。“できた”が、みんなの表情をふわっとほどいていく、そんな場面が目に見え喜びました。

特徴的なのが「作業をすると工賃が支払われる」仕組み。ランチづくりやブログ執筆、封筒のハンコ押しなど、15分ほどで交代しながら取り組みます。工賃はポイント制で、Tシャツ製作なら、印刷したシートをラミネート加工して1ポイント、畳んで袋詰めは5ポイントという具合に工程ごとに決まっています。皆さんは月に一度の工賃の支給日を楽しみにしていて、「仕事ないですか？」と聞いてくる利用者さんもいるのだとか。働いた分が形になる経験を丁寧に積み上げ、次のやる気につながっているようです。



作業も楽しんで行います♪

作品が街に出る、 街の声が戻ってくる

ピカソの大きな特徴は、外部展示の多さです。年に一度麻生市民館ギャラリーで展示を行うほか、新百合ヶ丘オーパでの展示は季節ごとに行われ、搬入・搬出の作業に参加して工賃が出ることも。展示を見に行き、写真を撮ることも活動の一部です。プロダクト・ディレクターの後藤さんは、「最近イベントでも『いつも見ているわよ』と声をかけていただけるようになりました。『頑張ってるね』と言われるので励みになります」と話します。誰かが立ち止まって自分たちの作品を見てくれている、そのことが次の作品を生む力になるように感じました。



賞は本人だけでなく 現場みんなの誇り

実は、今号の表紙作品の作者である KAI さんもピカソ・カレッジ新百合を利用しています。取材の中でも特に熱がこもったのが、「第2回かながわともいきアート展」での受賞のお話でした。ピカソからは入選者が複数出て、神奈川県知事賞や、ともいき賞を受賞した方も。「賞を取るのって、こんな気持ちなんですけどね(笑)」という後藤さんの言葉から、喜びと驚き、そしてスタッフの苦労もにじみます。この受賞が、本人だけでなく、周囲の大人や仲間の誇りにもなっていることが伝わってきました。



「神奈川県知事賞」の TOMO さんと「ともいき賞」の大園さんを囲んで

「楽しく」が軸、青春を謳歌

「ピカソ・カレッジ新百合」は、利用する皆さんが「行きたい」と思える楽しい場所であることを第一に、地域の皆さんに知ってもらいながら認めてもらって、見守られながら応援してもらえて、社会の一員としてかわりを持って生きていくことを大切にしています。もし新百合ヶ丘オーパのギャラリーなどで展示を見かけたら、ぜひ立ち止まってみてください。そのひと時が、彼らの次の挑戦につながっていきます。

■ ピカソ・カレッジ新百合 (古沢・金程)

川崎市麻生区古沢 255-5
電話 044-328-9240
川崎市麻生区金程 2-15-2
電話 044-322-8963



Instagram



就労支援ピカソ・カレッジのblog